



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2008.1

No. 285

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



2000-2001 年見つけ隊調査による

## シラコバトの生息実態

見つけ隊隊長 橋口長和

シラコバト (*Streptopelia decaocto*) は埼玉県の鳥として親しまれているが、県内でも常に観察できる鳥ではなく、生息場所が偏っている。2006年と2007年の関東ブロック協議会で、2008年夏から共同調査を行うことになったことは前月号で報告した通りである。

本特集では、2000年1月から2001年12月にかけて日本野鳥の会埼玉県支部で、「シラコバト見つけ隊」と称する調査班を結成し調査した資料を基に、その生息実態をまとめた。

### 1. データの収集と処理

見つけ隊調査は、生息分布域の特定を主目的として、県支部会員から観察報告を収集するとともに、インターネットを活用して一般からも観察報告を収集した。また、養鶏場などを餌場としていることが知られているので、畜産業者のリストを作成（県内 408 軒、近県 238 軒）、見つけ隊隊員による補完調査を行った。

2年間に収集したデータは合わせて 79 名 + 2 グループから、2000 年 746 件、2001 年 615 件、計 1,361 件に上った。

報告は 1 件ずつ地図と比較し第 3 次メッシュ (1/25,000 地形図を東西南北各 10 等分した約 1 km 四方の区域) コードを振り、パソコンに入力した。2年間 1,361 件のデータから重複した観察地を整理して、498 カ所の観察地が得られた。さらにその観察地を第 3 次メッシュコードで整理すると 283 メッシュになり、1/25,000 地形図 25 枚への分布となった。

電子データ化した事により、いろいろな角度での分析が可能になった。埼玉県支部の会員である大学生(当時)林美希氏は 2003~04 年にこれらのデータを利用して卒業研究を行った。正確に縮尺した電子地図上にメッシュコードで集計したデータをプロットした図で生息域を捉えたり、最新の地図情報データと比較し、シラコバトの分布が標高 50m 以下の

地域に限られているなど、GIS(地図情報システム)を駆使した面白い論文ができあがった。(林美希「埼玉県におけるシラコバトの生息域変化とその要因」2004年3月 東京農業大学)

### 2. 観察地メッシュ図と推定分布

観察報告があった場所の位置を 3 次メッシュコードで表し地図上にプロットした生息分布メッシュ図に基づき、推定分布図を作成した。

- ① 南は江戸川～綾瀬川間の東京外環自動車道
- ② 西は蓮田市までの綾瀬川が限界線となり、蓮田市から鴻巣市の荒川までの線、および熊谷市スポーツ文化公園を南北に荒川から利根川まで走る線を群馬県千代田町から栃木県佐野市の渡良瀬川間で伸ばした線
- ③ 北の境界は佐野市の渡良瀬川、栃木県小山市の渡良瀬遊水地北部
- ④ 東は茨城県古河市から利根川沿いに千葉県関宿町に下り、江戸川沿いに東京外環自動車道までの線

以上の境界で囲まれた約 1025 平方kmが主な生息域で、飛び地として、志木市・富士見市エリア約 22 平方km、および川島町・吉見町を中心とする約 47 平方kmがある。

### 3. 生息環境

生息の 3 条件として、埼玉県教育委員会が 1982 年に行った調査報告『天然記念物緊急調査報告・越ヶ谷のシラコバト』によると、

- ① 採餌場所となる畑・水田・空地などの開けた場所が必要であること
- ② 埒となる密な屋敷林等が、採餌場所の近くにあること
- ③ 水場としての河川、用水路があることが挙げられている。

本調査でも、農業地および隣接する住宅地

に多く生息し、畜産農家の鶏舎・豚舎・牛舎が餌場になっていることが裏付けられた。観察地メッシュ図を河川図に投影すると、大きな河川が生息境界になっており、河川伝いに生息域を広げていったことが推測できた。

松伏町の養鶏場における聞き取り調査では、「ネズミの食害対策に猫を飼い始めたらシラコバトばかり捕まえた。ムクドリやスズメより運動性が劣る」との話を聞いた。

野田市芽吹や関宿町台町では、利根川堤防沿いに 500m 間隔で養豚や牧牛農家が続けているが、屋敷林がない。運動性に劣るシラコバトが身を隠す場がないので、群れはいない。

栗橋町十三橋の養豚場では 2 棟の豚舎が並んでいて、1 棟には多数のシラコバトがいるのに、もう 1 棟には全くいない。いない方の豚舎では烏骨鶏(ウコッケイ)が放し飼いにされて、豚が食べ散らかした飼料を食べており、シラコバトの割り込む余地がない。

「劣る運動性」が、生息域が決まる上での大きな要素になっていることが、様々な事例から読み取れる。

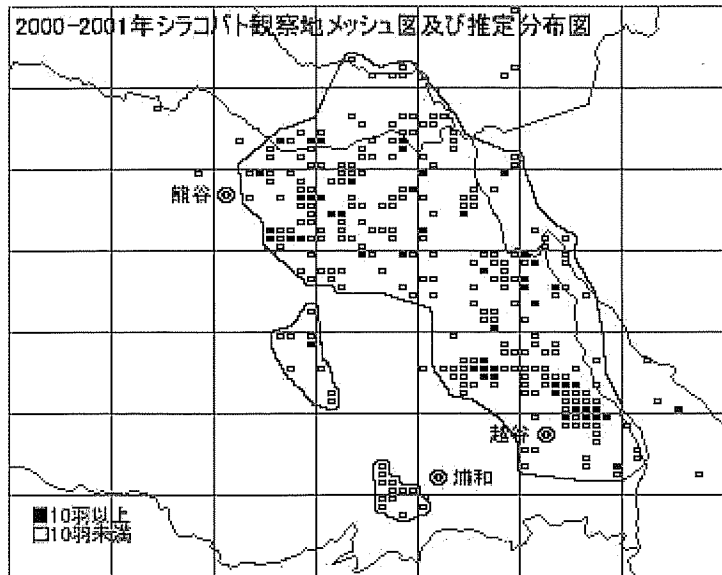
#### 4. 分布の境界と拡散の予想

本調査で判明した境界となっている環境を実地調査した結果、次の 3 条件が挙げられる。

①市街地、②広大な森、③隠れる林のない広大な水田地帯または河川敷

①の市街地において観察される場合でも、近隣の農業地帯から飛翔するもののように、旧浦和市、旧大宮市のような大市街地では観察の報告がない。越谷市においても「天然記念物 越ヶ谷のシラコバト」の越ヶ谷(越谷市役所近隣)では、市街化のためこの数年観察報告はない。

②は、大宮・岩槻台地や野田・柏台地に見



られる数 ha～数 10ha の森であり、周辺部の開けた場所では観察報告はあるが、森の中での観察報告は全く無い。

③は、利根川や荒川の河川敷と堤防外の水田地帯が幅 1～2km にわたり開けた環境になっている地帯であり、観察報告も無く、生息地域との境界になっている。

以上のことから、シラコバトの分布がもし拡散すると仮定した場合の方向は、埼玉県は熊谷市から深谷市、旧妻沼町方向。群馬県は邑楽郡を西進。栃木県は佐野市、足利市の渡良瀬川を西進と小山市、大平町の思川を北上することが考えられる。千葉県、茨城県は減少方向ではないかと思われる。

(謝辞：見つけ隊調査にご協力いただいた皆様にお礼申し上げますとともに、報告が遅れたこととお詫びします。)

関東ブロック協議会共同調査は広い地域を調査するため、皆様のご協力をお願いします。調査マニュアル等を整備しており、経験者と組んで実施することになります。調査は初めてだがやってみたいという方は、FAX

(支部事務局)、または e-mail:

(橋口)にご連絡ください。

あるいは、2月2日(土)16時から研究部・普及部合同会議を開催する予定ですので、直接支部事務所にお越し下さい。

# 2007年冬 カモ科調査

## 日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査が実施された2007年1月6日から8日は冬晴れの日が続いた。2006/2007年冬は例年通りの寒さ、カモ科総数は前年並みであった。県平野部の河川、湖沼の殆どが狩猟可能地域から除外された結果、カモ科がごく小規模内水面まで生息するようになり分散化が定着した。この傾向は神奈川県でも見られる。当支部の調査地以外にも100羽未満の越冬地が数多くあると考えられる。トモエガモは昭和沼6羽と武蔵丘陵森林公園1羽の計7羽で昨年同様激減している。

県内30カ所、31名の方々の調査に深謝します。

(小荷田行男)

調査地	入間川	荒川						古利根川		調整池	利根川	遊渡水良地類	狭山湖	調小節畔地川	新河岸川
		新豊水橋見橋	荒川鉄橋	調小節畔地川	秋ヶ瀬橋	南畑排水機	玉渡河原	玉渡ダム	壽橋						
調査範囲	新豊水橋見橋	荒川鉄橋	調小節畔地川	秋ヶ瀬橋	南畑排水機	玉渡河原	玉渡ダム	壽橋	古利根橋	池全部	坂東大橋下	貯水池	湖全部	池全部	寺尾調節地
地域	狭山市	戸川口市	戸田市	さいたま市	さいたま市	寄居町	寄居町	松越伏谷町市	春日部市	越谷市	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市
オオハクチョウ							137					5			
コハクチョウ												1			
オンドリ												1			
マガモ	5		11	3			8			10	127	1984	190	1	34
カルガモ	40	8	43	24	74			28	47	50	60	148	1		112
コガモ	43		44	21	67			5		35	228	36	49		67
トモエガモ															
ヨシガモ			4								32	15			
オカシガモ	3		10								45	45			14
ヒドリガモ		7	10		29			9		262	317			89	291
オナガガモ			5	14	5		1			24	7	64		73	8
ハシビロガモ			5		26										
ホシハシロ	1		3	4								2			
キンクロハシロ	1		14									1	4		
ホシヅクガモ			1								10		1		
ミゾアイサ			2												
カワアイサ				5	1										
カモ♀												2805			
種数	6	2	12	5	5	1	2	3	2	5	8	12	5	3	6
個体数合計	93	15	152	71	202	137	9	42	48	381	510	5288	245	163	526
調査者数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1

百穴湖	八丁湖	武蔵丘陵森林公園	川越公園水上	昭和沼	さきたま古墳	白幡沼	見沼自然公園	柳瀬川	元荒川	赤堀遊水池	緑の丘公園	宝蔵寺沼	越川辺島川町	大宮公園第3園	
大沼	池全部	池全部	池全部	久喜園蒲公	沼全部	沼全部	池全部	富士見橋	城北大橋	池全部	池全部	池全部	八幡団地前	池全部	
吉見町	吉見町	滑川町	川越市	久喜市	行田市	さいたま市	さいたま市	富士見市	さいたま市	桶川市	松伏町	羽生市	川島町	さいたま市	合計
															1
															210
															1
28	106	245	6	1195	432			1		382	12	6	8		4786
31		89	128	287	105		28	34	61	95	3	141	79	31	1749
54		272	141	191	284	22	43	261	99	186	93	11	88	35	2375
				6											7
				1								5			5
				9								2			84
				14								2			16
				46			4		48	157	16				34
	31	15		253			5								1581
		1		251			4		11						678
		2		9			2			2					74
11		2		104		2									156
3		2		127											199
															12
															67
															3
															1
6	2	9	6	10	3	3	6	6	3	6	6	6	8	9	種数
134	138	644	323	2443	821	28	166	357	317	681	120	166	263	266	個体数合計
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	31
															調査者数

# 野鳥記録委員会の最新情報

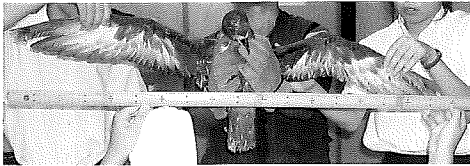
日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

## ●ハジロミズナギドリ

英名 Providence Petrel

学名 *Pterodroma solandri*

分類 ミズナギドリ目ミズナギドリ科シロハラミズナギドリ属



川口市神戸東の川口青陵高校生物部顧問の寿原淑郎先生からのメールによれば、「台風9号が通過した直後の2007年9月7日(金)午後2時頃、グラウンドで野球部の生徒によって保護され、衰弱していたので、市内の動物病

院に運びました。動物病院で回復を待ち、海で放鳥するということでした」とのこと。

当委員会で写真に基づき検討した結果、「翼上面の初列風切基部の羽軸が白く、放射状に見える」という、カワリシロハラミズナギドリの特徴が見えない、翼下面白斑の形と大きさ、足はピンクではなく黒褐色であること、などから、ハジロミズナギドリであると、同意見が一致しました。

本種はオーストラリア東部沖のロードハウス島とフィリップ島で繁殖し、夏から秋にかけて北太平洋北西部の洋上で見られます。日豪渡り鳥協定の指定種、IUCN レッドリスト絶滅危惧II類種。日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第6版』では、1982年三陸沖、1983年北海道南東部、1931年大東諸島の記録があるだけですが、洋上ではそれほど稀ではなく観察されているようです。ただし、内陸への迷行例は少なく、埼玉県内では初の確認記録(320種目)です。

## 埼玉県内年間鳥見ランキングにご参加ください

普及部長 橋口長和

新年もスタート、埼玉県支部の鳥見ランキングは6回目を迎えます。2007年の鳥見総決算として、「観察鳥種数ランキング」と「探鳥会参加数ランキング」に参加しませんか。

2007年1月1日から12月31日までの間に県内で観察した鳥種の数と、探鳥会参加回数によるランキングです。表彰状や賞品はありません。本誌上で結果を発表するだけですが、皆様のご参加をお待ちしております。

### 1. 県内観察鳥種数ランキング

- ・ 県内での観察であること。県境の河川敷等では、双眼鏡や望遠鏡で見える範囲を可とします。
- ・ 観察鳥種は当支部作成『埼玉県内鳥類リスト』に記載されているものとし、新種に関しては、当支部野鳥記録委員会が確認記録

した時点で加算。

- ・ 鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

### 2. 探鳥会参加回数ランキング

- ・ 埼玉県支部主催の探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント(2日以上にわたる宿泊探鳥会も1ポイント)とします。
- ・ 探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

### 3. 参加方法

- ・ 埼玉県支部会員に限ります。
- ・ リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号を記載して、電子メールまたは下記住所に郵送してください。
- ・ 締切 2008年1月31日(消印有効)

送り先

〒  
長和 e-mail: 橋口



## 野鳥情報

**春日部市倉常** ◇9月1日、ムナグロ8羽、タシギ1羽、クサシギ1羽、イソシギ2羽、タカブシギ20羽+、オジロトウネン2羽、アオアシシギ1羽、ヒバリシギ1羽、コチドリ50羽+。9月2日、ムナグロ10羽、タシギ1羽、タカブシギ9羽、オジロトウネン1羽、ヒバリシギ1羽、コチドリ多数。9月3日、ムナグロ33羽、タカブシギ8羽、タシギ2羽、コチドリなど。9月4日、ムナグロ22羽、タシギ1羽、タカブシギ7羽、オジロトウネン2羽など。9月9日、セイタカシギ2羽、イソシギ10羽、クサシギ1羽など。9月10日、セイタカシギ2羽、イソシギ13羽、クサシギ4羽、タカブシギ5羽、オジロトウネン。そして、久しぶりに見るアカアシシギ1羽、飛んだときの次列風切羽縁の白色が目立った。9月11日、アオアシシギ1羽、コアオアシシギ3羽、アカアシシギ1羽、セイタカシギ1羽、ソリハシギ1羽、クサシギ2羽、タカブシギ2羽、トウネン1羽、オジロトウネン1羽、イソシギ8羽、ムナグロ4羽、コチドリなど（鈴木紀雄）。

**春日部市立野** ◇9月2日、クサシギ2羽、イソシギ2羽、タカブシギ7羽など。9月3日、クサシギ2羽、イソシギ3羽、タカブシギ6羽など（鈴木紀雄）。

**川口市西新井宿** ◇9月2日、オオタカ♂1羽、近所の鉄塔に止まっていた。9月17日、コサメビタキ1羽、ミズキの木の周りを飛んでいた。キビタキ♀1羽（須崎 聡）。

**桶川市川田谷** ◇9月3日午前9時20分、江川左岸の柿畑にてモズの「キキキイー」という高鳴き（今秋初認）を聞いた。上空ではセッカが「ヒッヒッヒッヒッ」と長い間飛び回っていた。午前10時30分、同所にて柿畑南側のアシ原には、オオヨシキリが「ギョギョシー」と小声で鳴いていた。9月に聞いたのは初めて（立岩恒久）。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇9月7日、台風9号が通りすぎた正午少し過ぎころ、ミズナギドリ類（多分オオミズナギドリ）1羽がAs区上空を1度旋回してから、A区方向に飛んだ。オオジシギと思われるタシギ属1羽、次列風切後縁の白がなく、タシギより明らかに大きい。田んぼ脇の乾いた所から飛び立ち、別の乾いた所におりた。8日、B区でカルガモの群れの中に、コガモ5～6羽。オオタカ若鳥がカモの群れに突っ込んだが、狩は失敗。8日と9日、B区でイワツバメ、ショウドウツバメ、アマツバメ多数、次々と上空通過。9日、B区でノスリ1羽上空通過（海老原美夫）。◇9月12日、A'区でムナグロ68羽、ジシギ類3羽（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区野孫** ◇9月10日、稲刈後の田んぼでケリ2羽、その後、別の稲刈後の田んぼにケリ5羽。その間、10分程の時間が経過していたので、初めの2羽が5羽の中に入っていたかどうか不明。「キリリキリリ」とよく鳴いていた（鈴木紀雄）。

**蓮田市黒浜** ◇9月8日、ダイサギ13羽、コサギ11羽、稲刈の終わった田んぼに群れてバッタを追っていた。まだ真夏の暑さなのにダイサギは、はや冬羽だ。9月16日、ダイサギ7羽、コサギ6羽、アオサギ7羽、カイツブリ。カワウ及びツバメ、カルガモ多数（本多己秀）。

**越谷市梅林公園** ◇9月9日午前10時30分頃、公園の上空高くアマツバメが2羽飛んでいた（小菅 靖）。

**川越市新河岸川** ◇9月14日、ヒドリガモ1羽、飛来確認。カルガモ80羽、カイツブリ1羽、カワセミ3羽、ヨシゴイ1羽、ゴイサギ12羽、ダイサギ2羽、コサギ2羽、アオサギ2羽、オオヨシキリ5羽、セッカ2羽、ハクセキレイ2羽、セグロセキレイ1羽（藤掛保司・宮子、中間一郎）。

### 表紙の写真

スズメ目アトリ科アトリ属アトリ

撮影：島田沙織里（鴻巣市）



## 行事案内



コゲラ(又部綱仁)

### さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月3日(木)

集合：午前9時30分、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口7番バス乗り場から、大01、大02、大02-2系統で約20分。「さぎ山記念公園」下車。正月ダイヤの問い合わせは、国際興業さいたま東営業所(TEL 048-812-1577)まで。万一適当な時刻(9時前後発)のバスがない場合は、その次のバスが到着するまでお待ちします。あせらず、ゆっくりお出かけください。駐車場はありますが、もちろん飲酒運転厳禁です。

担当：海老原、楠見、福井、工藤、宇野澤  
見どころ：探鳥会終了後に恒例の野外新年懇親会が予定されています。酒類、食べ物持参歓迎。今年もシロガシラアカショウビンがさえざります。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月5日(土)

集合：午前10時10分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、森林公園南口行き9:59発バスで終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：藤掛、喜多、大坂、兼元、高橋(ふ)、高橋(優)、中村(豊)、林、藤澤

見どころ：カモたちやルリビタキなどを探

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

しながら、山田大沼まで歩きます。今年から、観察した外来種も番外として記録に残すことになりましたので、ドバトやガビチョウなども見逃さないように。

### ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月6日(日)

集合：午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後、京成バス9:40発船橋海公園行きに乗車、終点下車。

担当：杉本、佐久間、菱沼(一)、齋藤、高橋(優)

見どころ：スズガモとミヤコドリは圧倒的に日本一。ハマシギは日本で3番目の数が冬を越します。珍しいカモ類も期待しましょう。海風は冷たいので防寒の支度はしっかりと。

### 久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月12日(土)

集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。

交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、8:37発朝日バス菖蒲仲橋行きで「除堀(よけぼり)」下車。徒歩約15分。バス停からご案内します。

担当：玉井、大坂、長嶋、内田、長野

見どころ：沼を巡りながらカモたちやカイツブリをゆっくり観察します。10種以

上のカモの中から、トモエガモを探しましょう。アシ原の中のオオジュリンや木立の小鳥たちも楽しめます。

### 松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月12日(土)

集合：午前10時15分、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口下車、茨城急行バス③番松伏町役場9:47発で、「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、田邊、吉岡(明)、榎本(建)、植平、野村(弘)、野村(修)、小林(善)、森下

見どころ：公園の工事も8年目で、一部オープンしました。少しずつ変貌を遂げている公園を巡り、近くの古利根川にも足を運びます。解散後みんなでお弁当を食べませんか。ご持参ください。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：後藤、森本、中里、大澤、倉崎、島田、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶉飼

見どころ：大麻生も冬鳥たちで賑わっていることでしょう。ベニマシコやジョウビタキをはじめとして、マヒワなども探して見たいなーと思っています。

### 長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月13日(日)

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。  
交通：秩父鉄道熊谷8:18→寄居8:48、またはお花畑8:44に乗車。

担当：井上、佐久間、小池(一・順)、青山、喜多、堀口、大澤

見どころ：野山の鳥たちを中心に、水辺の鳥も。上空も注意しないと、上から猛

禽類が見下ろしているかも。川原を歩きますので、防寒対策を十分に、靴は履きなれたものでお出かけください。

### 戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月13日(日)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅東口2番バス乗り場から、下笹目行き8:37発で「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、藤掛、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀、馬場

見どころ：カンムリカイツブリ、カモ類、カモメの仲間も楽しみですね。ツグミ類は赤と白がそろうかな。

### 春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月14日(月・祝)

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③番から、国民年金エミナス行き8:41発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩3分。

担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)

見どころ：シメ、ツグミ、アオジ、シロハラ、ジョウビタキ、カケス、アカハラ……冬鳥の揃い踏みを楽しんで雑木林を歩きます。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月19日(土)午後3時～4時ころ  
会場：支部事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。



後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎

見どころ：新年の見沼田んぼは風が冷たい。遠く秩父の山々や富士山がよく見える。畑に植えられた木々のつぼみが春を待っている。今年も三室に鳥見にどうぞ。

### 北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月20日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前  
または午前8時30分、中央エントランス駐車場

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35  
→栗橋7:55→柳生8:05着。またはJR  
宇都宮線大宮7:07→栗橋7:40着で、  
東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：内田、橋口、田邊、四分一、中里、  
小林(正)、玉井、植平

見どころ：今年は干上げの影響がないうちにと、1月にしました。トモエガモ、ホオジロガモ、ミコアイサなどを探しながらのんびりと歩きます。浮島の上を飛ぶチュウヒやミサゴにも注目。防寒対策は足下から。温かい飲み物持参でご参加ください。

### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月26日（土）

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、長野、菱沼(一)、吉安、長嶋、榎本(建)、青木

見どころ：豊かな自然が残る黒浜沼は埼玉県の自然環境地域に指定され、田んぼ、アシ原、沼、草原、屋敷林など、変化に富んだ環境です。昨年1月の出現鳥は45種でした。

### 千葉県・銚子港周辺探鳥会（要予約）

期日：1月26日（土）～27日（日）

定員に達したので締め切りました。

### あけましておめでとうございます



支部長 藤掛 保司

会員の皆様、よいお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は、シロハラクイナが県内で2年連続繁殖

しました。その田んぼの方との素晴らしい交流で、田植えや稲刈りの体験、そして美味しい「神子田米」を味わえるようにもなりました。三宅島探鳥会も復活し、アカコッコ館のレンジャーとの交流も実現できました。

今年度も皆様とともに、探鳥会、自然観察会、調査、保護活動、小中学校の総合的な学習、公民館活動等々で、野鳥の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。さらに、県外宿泊探鳥会や県外日帰り探鳥会も計画しています。皆様方のフィールドでの様子も機会ある度にお聞かせ下さい。

これらたくさんの活動を通して、多くの皆様とお会いする喜びや、健康で安全な生活を共有し、日本野鳥の会埼玉県支部を、益々発展させていきたいと考えております。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線本川越8:43発、または所沢8:36発に乗車

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：私たちの身の回りには、たくさんの生き物が暮らしています。少し意識してみると、鳥、草花、昆虫……寒い冬でもいろいろな出会いがあります。

### 宮城県・伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：2月9日（土）～10日（日）

定員に達したので締め切りました。



## 行事報告

6月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 48名 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ コジュケイ パンコチドリ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 梅雨の合間は暑さに慣れないためか体にこたえる。しかし、カッコウが飛び、カッコウと鳴けば、元気になる。少なくなった田んぼの原風景を楽しみ、オオヨシキリ、セッカ、コチドリのしきりに鳴く声を聴くと心が晴れた。代用水の桜並木の下でゆっくり休憩する。風が吹き抜けると「やはり探鳥会に来て良かった」と全員の笑顔が広がった。(楠見邦博)

7月1日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加: 51名 天気: 曇時々晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ キジ パン コアジサシ キジバト カッコウ アマツバメ カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 思い出橋集合地点ではオオヨシキリやホオジロが声を張り上げ囀っている。谷中湖は水不足に備え満面の水を蓄えている。その上を数羽のコアジサシがゆったりと飛んでいた。展望塔付近ではヨシゴイがアシの上に止まり擬態のポーズ。今年この辺ではコヨシキリが少ない。歩くうちカッコウ、セッカ、ササゴイも観察。ウォッチングタワーに上れば、目にやさしい緑の遊水地の展望。鳥を見る目が休まる。復路は少し遠回り。北エントランスから入る横断道路まで出てオオヨシキリ、コヨシキリをノンビリ、ジックリと観察。この時期、アシ原浴で体調を整える。

(内田孝男)

7月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 22名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ キジ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 梅雨時にははしのぎやすい天気恵まれ、押切河原へと出発。ゴルフ場あたりではモズの幼鳥、最終地点の河原では、かわいらしいカイツブリの幼鳥4羽が観察できた。大麻生はまさに繁殖期の真っ最中。

(後藤康夫)

7月8日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 39名 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ オオタカ コジュケイ キジバト ホトトギス コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス キビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ハシブトガラス (21種) 曇空で余り暑くない。西田沼でカイツブリと巣。オオムラサキを見て梅林へ行く途中で、オオタカがキーキーと鳴きながら飛び回っている。イカルを見てから梅林へ。ヤマユリはまだ咲いていなかった。キビタキが藪の中で盛んに鳴いていた。

(佐久間博文)

7月15日(日) さいたま市 三室地区

台風のため中止。

7月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12名

新井澄男、池田泰右、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

7月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 26名 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ホシハジロ トビ イカルチドリ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ

イ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 梅雨が明けずにはっきりしない空模様が続く。かなり蒸し暑い、強い日差しに焼かれるよりいいか。めずらしくサギの仲間が5種。親子の見分けがほとんどつかなくなっているカルガモ一家の列縦隊がほほえましい。また、なが〜いへビの抜け殻や、その主と思われるアオダイショウなどを見た。あまり暑くなければ、夏の間川も結構楽しめる。(長谷部謙二)

8月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 37名 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (19種) 暑い、暑い。夏真っ盛り、猛暑の中の探鳥会。鳥も参加者も夏枯れ? 何の、何の! いつもより少な目だが、元気いっぱい、汗びっしょりで真夏の自然を楽しんだ。ここはトンボが数・種類ともに、とても多いのだ。飛翔するヤンマを双眼鏡で追い掛けるのって、結構面白い。ニホンミツバチやモンスズメバチの巣を覗いたり、クズの花そっくりに擬態したウラギンシジミの幼虫を見つれたり、少年時代の夏休み気分! えっ、鳥? 彼らも暑そうだった。ハシブトガラスもホオジロも、口をあけて喘いでいた。(浅見 徹)

8月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 26名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ トビ オオタカ キジ クサシギ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) 突然のオオタカのお出ましで探鳥会が始まった。ゴルフ場のユーカリの木に止まってじっとしている。皆でしっかりと見ることができた。土手に出るとキジが姿を現し、派手な衣装で皆を楽しませてくれた。相変わらず人気が高い。上空高くカワウが編隊を組んで飛んで行くのが何度も見られた。河原に出るとサギ類がゆったりと採餌していた。渡

り途中のクサシギは栄養補給に忙しそうだった。それにしても暑い暑い。皆の体調のことを配慮して早めに切り上げた。この4日後、熊谷で40.9℃となった。探鳥会当日でなくてよかったよかった。

(中里裕一)

8月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、志村佐治、千野安以、藤掛保司、松村禎夫

8月19日(日) さいたま市 三室地区

参加: 38名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 熱中症で倒れる人が続く暑い夏。しかし、三室の仲間は元気だった。代用水浴いの桜並木を歩きながら、夏の思い出や鳥談義に話が弾んだ。しばらく芝川に出て、カワセミの飛翔を見る。セッカの声を聞くと汗が噴き出した。夏の思い出が出来た探鳥会である。

(楠見邦博)

8月19日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 38名 天気: 晴

ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ スズガモ ミヤコドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ヒバリシギ ハマシギ コオバシギ オバシギ ミユビシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ セグロカモメ ウミネコ ハジロクロハラアジサシ ハシブトアジサシ アジサシ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セッカ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (36種) 思ったより暑くない中、珍鳥が出ているのを横目に、まずは西方に行き、シギ、アジサシを見る。ミユビシギ、オバシギ、夏羽のコオバシギ、ハジロクロハラアジサシ等を見て東方に。話題のハシブトアジサシ冬羽を見る。やはり大きい。遠くにミヤコドリを見て終了。(佐久間博文)



●冬鳥調査はがき同封します

前月号 5 ページでご協力をお願いした冬鳥調査のはがきを、今月号に同封します。出来るだけ多くの情報をお待ちしています。

●行事報告の訂正

本誌 8 月号 10 ページ、2007 年 1 月 27～28 日、茨城県平潟温泉探鳥会の観察種リスト中、鳥合せではハシビロアビが入っていたのにそれがなくなり、鳥合せで出なかったマダラウミスズメが入っているのご指摘に対し、ごく短時間の観察でハシジロアビと判断した鳥を、後日写真で詳しく検討した結果マダラウミスズメと同定を訂正、そのように掲載したと、担当者の説明です。また、同リストにホシハジロが重複して掲載されていますがこれは誤記、一方を削除し、ホオジロガモを追加します。説明不足と誤記が重なりました。申し訳ありません。

●観察種リストに「番外」を追加

県内でも外来種の観察例が増加しているようです。探鳥会で外来種を記録しておくことは、後年重要な資料となり得ます。そこで今後当支部の探鳥会では、県内野鳥リストに掲載されていない外来種などを「番外」として記録し、本誌行事報告欄にも掲載することにしました。

●幹事の辞任

島田恵司幹事(鴻巣市)から、仕事が忙しく幹事を続けるのが難しくなると辞任の申し出があり、11 月 18 日(日)の支部役員会で、止むを得ないものと受理しました。長い間ありがとうございました。なお、リーダーとしての活動は継続できるとのことです。

●再生コート紙からコート紙に

本誌は表紙をカラー化した 2005 年 1 月号

以来再生コート紙を使用していましたが、紙業界の流通事情から、再生コート紙の在庫がなくなると印刷会社から連絡があり、前月号から再生紙ではないコート紙を使用しています。

●事務局の予定

- 1 月 5 日(土) 編集部・普及部・研究部会議
- 1 月 12 日(土) 2 月号校正(午後 4 時から)。
- 1 月 19 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
- 1 月 20 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

●会員数は

12 月 1 日現在 2,250 人です。

活動報告

- 11 月 10 日(土) 11 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。
- 11 月 18 日(日) 役員会(司会: 山口芳邦、各部の報告・全国ブロック連絡会への出席者・1～4 月の行事予定・その他)。
- 11 月 22 日(木) 「支部報だけの会員」に向けて 12 月号を発送(倉林宗太郎)。
- 11 月 28 日(水) さいたま市みどり推進課主催「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク設立総会」と「第 1 回運営会議」(浦和駅東口コミュニティセンター)に出席(藤掛保司)。

編集後記

今月号、表紙の写真の撮影者を見て驚きました。私の知っている沙織里さんは、お母さんと探鳥会を盛り上げてくれていた小学生でした。デジスコを操るようにならなっていたんですね。お父さんは仕事の都合で幹事を辞任されましたが、お嬢さんがますます会を盛り上げてくれるので、頼もしく思います(山部)。

しらこぼと 2008 年 1 月号(第 285 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社